

# 新旧対照表

【土木工事施工管理基準】

改正後

備考

別表第1 直接測定による出来形管理【農業農村整備事業編】

工種	項目	規格値(mm)	(参考) 管理基準値 (mm)	測定基準	
1. 共通	10. 精度を要するもの	基準高 (V)	±20	±15	構造図の寸法表示箇所を測定する。
		幅 (B)	±10	±7	
	分土工計量部	厚さ (T)	±20	±13	
		高さ (H)	±10	±7	
ゲート戸当部	長さ (L)	±10	±7		
1. 共通	11. U字溝	基準高 (V)	±30	±20	施工延長おおむね50mにつき1箇所割合で測定する。
		中心線のズレ (e)	±50	±30	
	ベンチフリューム	施工延長	-0.1% ただし、延長200m未満 -200		
1. 共通	12. 土水路	基準高 (V)	±100	指定したとき ± 65	上記と同一
		幅 (B)	- 75	+100 -50	
		高さ (H)	指定したとき - 75	指定したとき +100 -50	
		施工延長	-0.2% ただし延長200m未満 -400		
1. 共通	13. アンカー工	削孔深さ (d)	設計値以上		施工全数
		配置間差 (d)	100		
		削孔方向 (θ)	±2.5度		
【削除】					

【農業農村整備事業編】

管理方式		測定箇所標準図	摘要
管理図表によるもの(様式3)	結果一覧表によるもの(様式8)		
—	構造図に未記、併記することが困難なもの		基準高、幅、厚さ、高さ、長さ
基準高中心線のズレ	左記のもの で20点未満のもの及び 20点以上のもの		—
基準高、幅、高さ	左記のもの で20点未満のもの及び 20点以上のもの		—
削孔位置、方向	左記のもの で20点未満のもの。		【削除】

工種名の変更

現行

工種	項目	規格値(mm)	(参考) 管理基準値 (mm)	測定基準	
1. 共通	10. 精度を要するもの	基準高 (V)	±20	±15	構造図の寸法表示箇所を測定する。
		幅 (B)	±10	±7	
	分土工計量部	厚さ (T)	±20	±13	
		高さ (H)	±10	±7	
ゲート戸当部	長さ (L)	±10	±7		
1. 共通	11. U字溝	基準高 (V)	±30	±20	施工延長おおむね50mにつき1箇所割合で測定する。
		中心線のズレ (e)	±50	±30	
	ベンチフリューム	施工延長	-0.1% ただし、延長200m未満 -200		
1. 共通	12. 土水路	基準高 (V)	±100	指定したとき ± 65	上記と同一
		幅 (B)	- 75	+100 -50	
		高さ (H)	指定したとき - 75	指定したとき +100 -50	
		施工延長	-0.2% ただし延長200m未満 -400		
1. 共通	13. 抑止アンカー (緊張するアンカー)	削孔長 (L)	設計深さ以上		施工全数
		削孔位置 (d)	100		
		削孔方向 (θ)	±2.5度		
1. 共通	14. アンカー (緊張しないアンカー)	削孔長 (L)	設計深さ以上		施工全数
		削孔位置 (d)	100		
		削孔方向 (θ)	(a)15 (b)40		

【農業農村整備事業編】

管理方式		測定箇所標準図	摘要
管理図表によるもの(様式3)	結果一覧表によるもの(様式8)		
—	構造図に未記、併記することが困難なもの		基準高、幅、厚さ、高さ、長さ
基準高中心線のズレ	左記のもの で20点未満のもの及び 20点以上のもの		—
基準高、幅、高さ	左記のもの で20点未満のもの及び 20点以上のもの		—
削孔位置、方向	左記のもの で20点未満のもの。		アンカー工 (緊張しないアンカー)はロープネット工の岩アンカー、アンカー付吊橋の岩アンカー等に適用する。

# 新旧対照表

【土木工事施工管理基準】

## 改正後

備考

【農業農村整備事業編】

通し番号  
の変更

工種	項目	規格値(mm)	(参考)管理基準値(mm)	測定基準
1. 共通工事	14. 鉄筋組立 かぶり (t)	±φかつ最小かぶり		測定箇所標準図による1スパン(1打設ブロック)毎に測定する。  注1) 重要構造物かつ主鉄筋について適用する。  注2) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工及び内空断面積25㎡以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工程において対象外)の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領(案)も併せて適用する。
	平均間隔 (d)	±φ		

管理方式			測定箇所標準図	摘要
管理図表によるもの(様式3)	結果一覧表によるもの(様式8)	構造図に未記、併記するもの		
—	○	—	<p>主鉄筋 φ 配力筋 帯鉄筋 最小かぶり かぶり</p>	1面当たり4箇所程度測定する。同一鉄筋上での測定は行わない。  最小かぶりは構造物の種別に応じてコンクリート標準示方書、道路橋示方書を参照
			<p>D: 本間の長さ n: 10本程度とする</p> $d = \frac{D}{n-1}$	測定箇所は、スパン毎に同じ位置とならないように測定する。

## 現 行

【農業農村整備事業編】

工種	項目	規格値(mm)	(参考)管理基準値(mm)	測定基準
1. 共通工事	15. 鉄筋組立 かぶり (t)	±φかつ最小かぶり		測定箇所標準図による1スパン(1打設ブロック)毎に測定する。  注1) 重要構造物かつ主鉄筋について適用する。  注2) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工及び内空断面積25㎡以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工程において対象外)の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領(案)も併せて適用する。
	平均間隔 (d)	±φ		

管理方式			測定箇所標準図	摘要
管理図表によるもの(様式3)	結果一覧表によるもの(様式8)	構造図に未記、併記するもの		
—	○	—	<p>主鉄筋 φ 配力筋 帯鉄筋 最小かぶり かぶり</p>	1面当たり4箇所程度測定する。同一鉄筋上での測定は行わない。  最小かぶりは構造物の種別に応じてコンクリート標準示方書、道路橋示方書を参照
			<p>D: 本間の長さ n: 10本程度とする</p> $d = \frac{D}{n-1}$	測定箇所は、スパン毎に同じ位置とならないように測定する。

# 新旧対照表

【土木工事施工管理基準】

改正後

備考

別表第2 直接測定による出来形管理【森林保全事業編】

【森林土木工事共通】

工種	項目	規格値(mm)	測定基準	
3 1 32 現場塗装工 共通 一般施工	塗膜厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。  b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。  c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。 ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。		
	33 アンカー工  【削除】	削孔深さ $g$	設計深さ以上	施工全数
		配置誤差 $d$	100	
		せん孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度	
	34 鉄筋挿入工	削孔長 $L$	設計深さ以上	施工全数
		削孔位置 $d$	100	
		削孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度	

管 理 方 式			測定箇所標準図	摘 要
管理図表によるもの(様式3)	結果一覧表によるもの(様式8)	構造図に朱記併記するもの		
塗膜厚で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの			塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500m <sup>2</sup> とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200m <sup>2</sup> に満たない場合は10m <sup>2</sup> ごとに1点とする。
削孔位置、方向で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの			
削孔位置、方向で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの			

工種名の変更

通し番号の変更

現 行

【森林土木工事共通】

工種	項目	規格値(mm)	測定基準	
3 1 32 現場塗装工 共通 一般施工	塗膜厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。  b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。  c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。 ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。		
	33 抑止ピン (緊張するアンカー)	削孔長 $L$	設計深さ以上	施工全数
		削孔位置 $d$	100	
		削孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度	
	34 アンカー (緊張しないアンカー)	削孔長 $L$	設計深さ以上	施工全数
		削孔位置 $d$	100	
		削孔方向 $\theta$	(a)15 (b)40	
	35 鉄筋挿入工	削孔長 $L$	設計深さ以上	施工全数
		削孔位置 $d$	100	
		削孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度	

管 理 方 式			測定箇所標準図	摘 要
管理図表によるもの(様式3)	結果一覧表によるもの(様式8)	構造図に朱記併記するもの		
塗膜厚で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの			塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500m <sup>2</sup> とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200m <sup>2</sup> に満たない場合は10m <sup>2</sup> ごとに1点とする。
削孔位置、方向で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの			アンカー工(緊張しないアンカー)は、ロープネット工の岩アンカー、アンカー付吊橋の岩アンカー等に適用する。
削孔位置、方向で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの			



# 新旧対照表

【土木工事施工管理基準】

## 改正後

備考

別表第3 品質管理

7. アンカー関係				
工程	区分	試験(測定)項目	試験方法	試験(測定)基準
		<b>【削除】</b>		
1	施工	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	2回(午前・午後) / 日
		モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。
		適性試験(多サイクル確認試験)	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	・施工数量の5%かつ3本以上 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引抜き試験に準じた方法で荷重と除荷を繰り返す。 ・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除く全て ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重まで荷重した後、初期荷重まで除荷する1サイクル方式とする。
	その他	その他の確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	
2	施工	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	1) 施工開始前に1回 2) 施工中はトンネル施工延長50mごとに1回 3) 製造工場または品質の変更あるごとに1回
		モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	1) 施工開始前に1回 2) 施工中または必要の都度 3) 製造工場または品質の変更あるごとに1回
		ロックボルトの引張試験	設計図書による	掘削の初期段階は20mごとに、その後は50m毎に実施、1断面当たり3本均等に行う(ただし、坑口部では両側壁各1本)
3	材	品質検査(芯材・ナット・プレート等)	ミルシート	材料入荷時
		外観検査	目視 寸法計測	材料入荷時
	料	圧縮強度試験	JIS A 1108	施工開始前1回および施工日ごと1回(3本/回)
		定着材のフロー値試験	JSCE-F521-2018	施工開始前1回および定着材の材料や配合変更時に実施。1回の試験は測定を2回行い、測定値の平均をフロー値とする。
		引き抜き試験(受入れ試験)	地山補強土工法設計・施工マニュアル	・施工全数量の3%かつ3本以上を標準とする。 ・荷重サイクルは1サイクルとする。
		引き抜き試験(適合性試験)	地山補強土工法設計・施工マニュアル	・地層ごとに3本以上を標準とする。 ・荷重サイクルは多サイクルを原則とする。 ・初期荷重は、5.0kNもしくは計画最大荷重の0.1倍程度とする。

規格値	管理方式	処置
<b>【削除】</b>		
設計図書による	セメント・コンクリートの品質管理基準に準ずる	
設計図書による		
設計アンカー力に対して十分に安全であること。	グラウンドアンカー設計施工基準、同解説による。	ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。
設計アンカー力に対して十分に安全であること。	グラウンドアンカー設計施工基準、同解説による。	ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。
所定の緊張力が導入されていること。	グラウンドアンカー設計施工基準、同解説による。	・定着時緊張力確認試験 ・残存引張力確認試験 ・リフトオフ試験 等があり、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験の試験結果とともに、監督員と協議し必要性の有無を判断する。
設計図書による	セメント・コンクリートの品質管理基準に準ずる	
設計図書による		
設計図書による		(参考資料)ロックボルト引抜き試験の(4)試験後のボルトの処置参照のこと。
設計図書による	地山補強土工法設計・施工マニュアルによる	
設計図書による		
9~22秒		定着材をセメントミルクまたはモルタルとする場合 定着材をセメントミルクまたはモルタルとする場合
設計図書による。		
設計図書による。		

工種名の変更

通し番号の変更

## 現 行

7. アンカー関係				
工程	区分	試験(測定)項目	試験方法	試験(測定)基準
1	抑止 アン カー 工	適正試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引抜き試験に準じた方法で荷重と除荷を繰り返す。
		確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説	・多サイクル確認試験分に用いたアンカーを除くすべてのアンカー ・初期荷重は、計画最大試験荷重の約0.1倍とし、計画最大試験荷重まで荷重した後、初期荷重まで除荷する1サイクル方式とする。
2	施 工	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	2回(午前・午後) / 日
		モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。
		ロックボルトの引張試験	設計図書による	全本数の5% ただし3本以上
3	施 工	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	1) 施工開始前に1回 2) 施工中はトンネル施工延長50mごとに1回 3) 製造工場または品質の変更あるごとに1回
		モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	1) 施工開始前に1回 2) 施工中または必要の都度 3) 製造工場または品質の変更あるごとに1回
		ロックボルトの引張試験	設計図書による	掘削の初期段階は20mごとに、その後は50m毎に実施、1断面当たり3本均等に行う(ただし、坑口部では両側壁各1本)
4	材	品質検査(芯材・ナット・プレート等)	ミルシート	材料入荷時
		外観検査	目視 寸法計測	材料入荷時
	料	圧縮強度試験	JIS A 1108	施工開始前1回および施工日ごと1回(3本/回)
		定着材のフロー値試験	JSCE-F521-2018	施工開始前1回および定着材の材料や配合変更時に実施。1回の試験は測定を2回行い、測定値の平均をフロー値とする。
		適合性試験	地山補強土工法設計・施工マニュアル	・地層ごとに3本以上を標準とする。 ・荷重サイクルは多サイクルを原則とする。 ・初期荷重は、5.0kNもしくは計画最大荷重の0.1倍程度とする。
		受入れ試験	地山補強土工法設計・施工マニュアル	施工全数量の3%かつ3本以上を標準とする。 荷重サイクルは1サイクルとする。

規格値	管理方式	処置
設計荷重にたいして十分に安全であること。	グラウンドアンカー設計施工基準、同解説による。	所定の規格値が得られない場合は原因を究明し適切な処置をとること。
設計荷重にたいして十分に安全であること。		
設計図書による	セメント・コンクリートの品質管理基準に準ずる	
設計図書による		
設計荷重にたいして十分に安全であること。	セメント・コンクリートの品質管理基準に準ずる	
設計図書による		
設計図書による		(参考資料)ロックボルト引抜き試験の(4)試験後のボルトの処置参照のこと。
設計図書による	地山補強土工法設計・施工マニュアルによる	
設計図書による		
9~22秒		定着材をセメントミルクまたはモルタルとする場合 定着材をセメントミルクまたはモルタルとする場合
設計図書による。		
設計図書による。		